

循環バス情報提供も

弘 前

ゆきナビ 実証実験 推進委が実施計画

歩道などにICタグを

取付け、高齢者や身障

者らが冬場も安心して移

動できる環境づくりを目

指す「ゆきナビ」あおり

プロジェクト」の第二回

推進委員会が十六日、弘

前市で開かれ、市内で今

冬実施する実証実験の実

試み、商店街の協力を得

同市内での実証実験は

来年一月下旬から二月中

旬にかけて実施。追手門

広場内で視覚障害者の歩

行誘導実験を行うほか、

土手町エリアで新たに循

環バス運行情報の提供を

試み、商店街の協力を得

て店舗や地域情報も提供

光情報も提供する。

二月に行われる弘前城

雪燈籠まつりとも連携し

て、冬の弘前公園内にも

ICタグを設置し、灯ろ

う制作者の声を発信する

ほか、祭りの見どころ、

モデルコース案内など観

また、今回新たにシス

テムの社会的効果の把握

手法を検討し、システム

導入に伴う経済効果も試

算する計画。

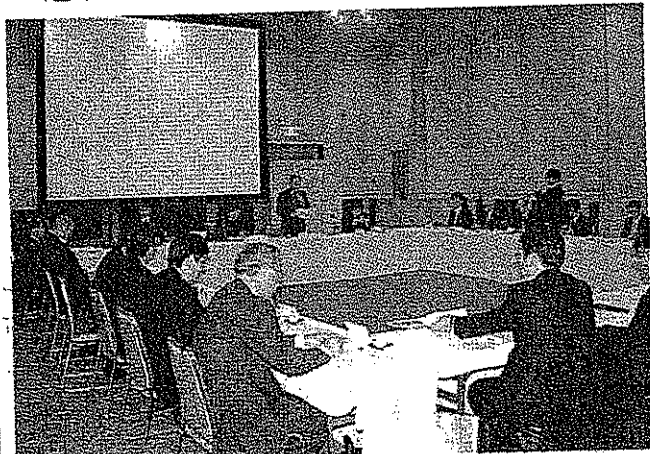
県内では昨年度、青森

市中心部の柳町通り周辺

で実証実験が行われた。

この結果を踏まえ、弘前市ではさらに実験内容のレベルアップを図り、雪国ならではの利用しやすいシステム構築を目指す方針だ。

委員会にはメンバーら約三十人が出席。国の自律的移動支援プロジェクト推進委員会の坂村健委員長は「雪国でどんな情報が欲しいのか、何を発信したのかを整理することが重要。地域の意見を反映させてより良い仕組みをつくりたい」と述べた。



弘前市での実証実験実施計画をまとめた第2回委員会